

～ヒブワクチンの接種を希望される方へ～



ヒブワクチンに関する大切な情報です。必ずお読みください



1. ヒブ髄膜炎って何??

「ヒブ」とは、【ヘモフィルスインフルエンザ菌b型】という細菌のことです。最初に発見されたときにインフルエンザ感染者から発見されたため、『インフルエンザ菌』という名前がつけました。冬に流行するインフルエンザウイルスとは全く違います。

このヒブという細菌が、人から人へ飛沫感染し、肺炎や喉頭蓋炎、敗血症などの重い全身性疾患を引き起こします。なかでも髄膜（脳や脊髄を覆う膜）に感染するヒブ髄膜炎は最も頻度が高く、予後が悪い病気です。

4. ヒブ髄膜炎はいつかかるの？

生後3ヶ月から5歳になるまでの子ども達が多くかかります。とくに、2歳未満のお子さんに多いです。毎年全国で約600人の乳幼児がヒブ髄膜炎にかかっていることがわかっています。

3. ヒブ髄膜炎にかかるとどうなるの？

ヒブ髄膜炎にかかると発熱、頭痛、嘔吐、不機嫌、けいれんなどのかぜのような症状がみられ、そのうちの約5%は死亡、約25%に後遺症（聴覚障害、発達の遅れなど）がみられます。

2. ヒブ髄膜炎の治療法は？

ヒブ髄膜炎は、初期症状がかぜ症状と区別が付きにくく、簡単な検査では診断が付きません。また早期診断がついても現在では耐性菌（薬に対して抵抗力をもってしまった菌）が増えているため治療が難しくなっています。

そこで、作られたのが「ヒブワクチン」です。



5. ヒブワクチンの安全性は？

ヒブワクチンの主な副反応は、接種部位の赤みや腫れで、その他発熱が数%報告されています。これらは通常一時的なもので数日以内に消失します。

ヒブワクチンは製造工程にウシ由来の成分が使用されていますが、海外で使用開始されてからワクチンが原因でTSE（伝達性海綿状脳症）にかかったという報告は、現在までありません。

6. 健康被害に対する救済措置について

ヒブワクチンは、任意の予防接種です。このため、万が一ヒブワクチン接種による健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく救済ではなく、【独立行政法人医薬品医療機器総合機構法】に基づく救済の対象になります。



ヒブワクチンの接種スケジュール

(注:「未満」は、誕生日の2日前までのこととなります。)

【生後2ヶ月から7ヶ月未満】

- ・ 28日～56日の間隔で3回接種、3回目終了後おおむね1年で追加接種

【生後7ヶ月から12ヶ月未満】

- ・ 28日～56日の間隔で2回接種、2回目終了後おおむね1年で追加接種

【生後12ヶ月から60ヶ月未満(1歳から5歳未満)】

- ・ 1回接種

他の予防接種との接種間隔

予防接種の種類	接種間隔
BCG、ポリオ、麻疹・風疹	次の接種は27日以上あける
三種混合(DPT)、日本脳炎、ヒブ	次の接種は6日以上あける

* 医師の判断で、他のワクチンとの同時接種が可能な場合があります。医師にご相談ください。



ヒブワクチンは、任意の予防接種になります。

接種にあたっては、かかりつけの医師とよく相談をしましょう！！